

## 会議録

会議の名称	第2回西東京市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	平成26年10月14日（火曜日）午後2時から4時まで
開催場所	第1・2講座室（エコプラザ西東京）
出席者	委員：山谷会長、一方井副会長、木内委員、笠原委員、利光委員、草野委員、福田委員、高辻委員、本橋委員、池田委員、戸部委員 事務局：湊部長、山本課長、遠藤係長、藤巻係長、都築主査、三村技能主任、岩崎技能長、平岡主事
議題	(1) 平成25年度のごみ量結果を踏まえた平成27年度の取組について (2) 平成26年度の取組について (3) その他
会議資料の名称	資料1 第1回会議録 資料2 平成25年度 多摩地域ごみ量調査結果一覧 資料3 平成27年度予算編成へ向けた検討課題について 資料4 西東京市一般廃棄物処理基本計画 事業一覧
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>発言内容等</p> <p>1 開会の挨拶</p> <p>2 会議録の確認 第1回会議録（資料1）について承認された。</p> <p>3 議題 各委員より提出された資料をもとに意見交換を行った。 （委員からの主な意見）</p> <p>[平成25年度 多摩地域ごみ量調査結果一覧について]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この調査結果は何のために実施しているのか、西東京市と類似した市と比較してほしい。</li> </ul> <p>[平成27年度予算編成に向けた検討課題について]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜここまでごみの減量をしなければいけないのか、ごみに興味のない人に理解させていく必要がある。</li> <li>・行政は、環境面からごみを減らすことにより、二酸化炭素も減らすという高い意識を持っている人は少ない。消費者関係では、昨年までは消費等の被害に遭わないようなテーマだったが、今年は、地球環境を壊さない買い物の方法をPRしている。</li> <li>・行政は、ごみを減らすことと資源化率を高めることのどちらを優先しているのか。市民の中にはエコバックを持っているにもかかわらず、レジ袋を要求する人もいる。</li> <li>・ごみとして排出されるものは仕方がないが、ごみ減量とリサイクルを両立する必要がある。ある意味一体的なもので、一連の流れである。</li> <li>・ごみの減量等は、長期的・短期的に考える必要がある。</li> </ul>	

- ・ 集団回収を実施して25年になるが、分別とリサイクルを説明し、ごみ減量と環境保護に関して高い意識を持ってもらうことが重要である。
- ・ 事業系ごみには、集団回収等の制度がないため、事業系ごみを減らすのは難しい。
- ・ 事業所のごみ箱に家庭ごみを入れられてしまう。市民のモラルが悪い。今ではごみ処理に月10万円程度かかる。事業者は市に多くの税金を払っているのに、市も事業系のごみについて考えてほしい。
- ・ 事業系ごみは、市の税金等で収集することは難しい。法律では自己処理が原則になっている。
- ・ 事業所のごみは、リサイクルできない商品もあるが、可燃ごみと段ボールと一緒に収集することによって、ごみ処理経費を安価に抑えられていることができているとも考えられる。
- ・ 事業系ごみを柳泉園組合に持ち込みをするときは、柳泉園組合だけのチェックだけではなく、柳泉園組合の関係3市もチェックする必要がある。
- ・ 1年間の生ごみ処理の補助は何世帯か。また、生ごみ処理機のモデル事業を募集し、生ごみ処理機を利用してもらうようPRする必要がある。  
(市の回答…「79基の補助をしている。」)
- ・ モニターを实际行い、生ごみ処理機を購入した。モニターを行った人のほとんどが購入している。实际生ごみが無くなるので助かっている。
- ・ 予算編成するときは、ごみが減れば経費が減るのでその分を他のごみ処理経費に利用できるのか。資源物を戸別収集する増額予算をごみ減量経費でまかなえるのか。  
(市の回答…「できるように考えていきたい。」)
- ・ 水切りグッズにどんなものがあるのか提案してもらうと助かる。また、近隣市で子供たちにどのような啓発活動を行っているのか調査し、長期的に考えていければと思う。エコプラザのごみ減量等のPRを田無庁舎で行ってもらうと助かる。

#### 【西東京市一般廃棄物処理基本計画 事業一覧について】

- ・ ボランティア袋の無料配布とあったが、20リットルの袋だとスカスカでもったいない。通常の袋を利用できると助かる。
- ・ 市の配布物には市民にごみ減量等を十分PRする掲載事項が少ない。レジ袋を無料でもらう人は少なく、全国で約8割の人がマイバックを利用している。武蔵野市や八王子市等はレジ袋の削減に取り組んでいる。西東京市も商店街・市民・行政が協力するようなことを掲載していただきたい。
- ・ 集団回収の品目で金属・小型家電を増やしてほしい。アルミ缶とペットボトルは量が多いので月1回の回収では難しい。
- ・ 集団回収において、小型家電や金属等量が多ければ回収できるが、1個・2個の回収だとコストがかかってしまう。また、今集団回収世帯も5世帯からとなっているが、収集する側からすると世帯が多い方が良い。今、古紙は増えることがないため、他の雑品を回収ルートに乗せられるよう検討している。
- ・ 出前講座による情報提供することは重要である。紙ベースやホームページに掲載するだけでなく、顔を見せながらの情報提供することが重要である。
- ・ 社会教育と連携して子供たちに情報を提供すべきである。
- ・ 基本計画事業一覧の中の家庭ごみ処理有料化の分析の部分がよく分からない。袋を高くすることによってごみの減量を考えているのか。

- ・他の自治体では袋の値段は変えずに袋を小さくするような諮問を出した市もある。
- ・基本計画事業一覧には、費用対効果がまったく掲載されていない。
- ・事業計画一覧には、予算がどのようにかかるのか掲載した方が良い。

以上